

●札幌市と道内市町村との連携促進に向けた取り組みについて

札幌市では、平成 25 年 2 月に策定した「札幌市まちづくり戦略ビジョン（ビジョン編）」で示した、「道内市町村との広域的な連携を深めることで、札幌だけでなく北海道全体の魅力向上を図っていく」との基本姿勢と、「北海道の発展なくして、札幌の発展はない」との考え方の下、道内市町村との新たな連携事業を実施します。

この事業では、まず、北海道の協力の下、道内全市町村に対して、札幌の都市機能の活用状況や現状の課題、札幌市に求める役割などについてアンケート調査を実施しました。その結果を踏まえ、各地域の特産品の販路拡大への支援として「道産食彩 HUG」への「お試し出展」を実施することとしたほか、各市町村からの相談受付や利用可能な事業紹介等を一括して行う総合窓口として「つながる地域ホットライン」を開設しました。

また、札幌市の道内連携についての考え方などを知ってもらうとともに、具体的な連携事業と一緒に検討していくため、札幌市の幹部職員が道内各地域を訪問する「ぐるっと地域訪問」を 6 月下旬から順次行っています。

札幌市では、これまでも道内中核都市や近隣市町村を中心にさまざまな連携を図ってきたところですが、今後も道内各地域とともに発展していく札幌市を目指し、各地域と札幌市のお互いのニーズに即した取り組みを充実させていきます。

<STEP 1：市町村ニーズの把握①>

○市町村アンケートの実施 ※詳細は別紙のとおり

札幌が有する都市機能や大規模マーケットを、道内市町村にこれまで以上に活用してもらうために、北海道の各振興局を通じて、札幌の都市機能の活用状況や現状の課題、札幌市に求める役割などについて、道内全市町村へのアンケート調査を実施。

(1) 実施日：平成 25 年 4 月 30 日から 5 月 20 日まで

(2) 回答の概要

- ・都市機能の活用状況：オータムフェストへの参加など、集客機能の活用が多数ある一方で、事業効果の継続性や効果的な広報の実施などを課題とする回答が多数。また、活用が少ない市町村は、きっかけが無いとの回答が多数。
- ・札幌市に求める役割：販路拡大や集客、広報活動への支援などの役割を期待

<STEP 2 : 具体的な取組への展開①>

○販路拡大への支援～道産食彩 HUG への「お試し出展」～

道内各地域の隠れた逸品等を、札幌の大規模マーケットを活用し販売することにより、販路拡大を目指すとともに、札幌市民に安全安心な道産食材を提供する。

場所：道産食彩 HUG（中央区南 2 西 5）

出展：現在、北海道および北海道商工会議所連合会の協力を受けながら道内各市町村を通じ、生産者等に出展の意向を確認中。

期間：7 月頃より振興局単位を基本とし、月替わりでの出展を実施予定。

費用：出展費用は札幌市が負担

○総合相談窓口「つながる地域ホットライン」の開設

連携事業を実施していくに当たり、各市町村からの相談受付や利用可能な事業紹介等を一括して行う総合窓口「つながる地域ホットライン」を市長政策室に開設。

(1) 開設日：平成 25 年 5 月 31 日（金）

(2) 電話番号：011-211-2192

<STEP 3 : 市町村ニーズの把握②>

○地域との意見交換「ぐるっと地域訪問」

札幌市の考え方や今後のサポート内容のほか、具体的な連携事業の展開に向けて、6 月下旬から順次、札幌市の幹部職員が道内各地域を訪問し、連携に向けた意見交換を実施予定。

<STEP 4 : 具体的な取組への展開②>

○市町村アンケートや地域の声を踏まえた各種サポート事業

- （想定される取組）
- ・地下歩行空間において離島等の遠隔地を対象に道内循環の促進支援
 - ・各種広報ツールの活用による札幌圏での広報支援 等

問い合わせ先

市長政策室政策企画部企画課

稲木・菅原・小野

電話：211-2192

市町村アンケートの実施結果（速報）について

＜回答市町村数 178 市町村／178 市町村＞

1 これまでの取り組み等に関すること

（１）札幌の有する都市機能のこれまでの活用状況（H24.4～25.3（予定含む））※複数回答

区分	回答数 (回答市町村の割合)	主な内容
<u>集客機能の活用</u>	<u>112 (62.9%)</u>	<u>オータムフェスト、地下歩行空間、大手スーパー等でのイベント</u>
企業や団体の活用	48 (27.0%)	特産品を活用したメニューの共同開発、災害時の連携協定
多様な人材の活用	37 (20.8%)	NPO 代表、銀行顧問等による研修会や講習会等の実施
広報ツールの活用	30 (16.9%)	ラジオ番組出演、フリーペーパー掲載、地下鉄での広告掲示
大学等の研究開発	29 (16.3%)	地域サテライトキャンパスの実施、商品開発に向けた検討
その他	21 (11.8%)	札幌の子ども会による地域体験ツアーの実施
合計	277	

（２）都市機能の活用に当たり、障壁となった点や結果として課題となった点

＜主な意見＞

- ・催事での特産品販売は好評であったが、その後の継続的販売に至らない
- ・広報不足による集客への課題や、どのような広告媒体があるかの情報不足
- ・どのような施設がいくらで利用できるのかなどの情報が不足していた
- ・遠隔地のため、物産の送付やスタッフの派遣費用などの負担が大きい
- ・研究機関や人材を活用した成果をビジネス化したいが、町内にそのようなノウハウを持つ企業や研究機関がないため取組が進まない

（３）都市機能をこれまであまり活用してこなかった理由

＜主な意見＞

- ・これまで実績がなく、新たに取り組むキッカケが無い
- ・過去に実施したが十分な効果が得られなかったため
- ・近隣の中心都市との連携を進めているため
- ・首都圏や東北地方への発信に力を入れているため

2 今後の意向に関すること

（１）札幌市に求める役割について ※複数回答

区 分	回答数（回答市町村の割合）
<u>特産品等の販路拡大や販売力強化への支援</u>	<u>131 (73.6%)</u>
<u>集客機能の活用支援</u>	<u>107 (60.1%)</u>
<u>広報ツールの活用に向けた協力</u>	<u>77 (43.3%)</u>
企業・団体の活用に向けたコーディネート	53 (29.8%)
多様な人材とのコーディネート	40 (22.5%)
大学等の研究開発とのコーディネート	25 (14.0%)
その他	8 (4.5%)

（２）サポートを期待する具体的な事業

＜主な意見＞

- ・開発した特産品をテスト販売する場の提供や小ロット商品の輸送コスト軽減への支援
- ・市内小学生と地域の小学生や農家などとの交流機会の創出
- ・広報さっぽろなどの広報ツール活用機会の提供やパンフ配架可能箇所などの情報提供
- ・市電や地下鉄等を活用した市町村 PR への支援
- ・調理師専門学校生などの協力による料理コンクールの開催を通じた特産品開発支援
- ・定山溪温泉などから道内観光地へ繋がる仕組みの構築